

九州豪雨災害復興祈念 **Tour of 九州 2022**

全国ジュニアステージロードレース 自転車競技部報告

大会日程 令和4年8月19日(金)～21日(日)

参加者 茨木工科 塚本・橋本・渡辺 清風高 田上 興國高 河村・稲吉

昨年度から始まった、本大会に近畿大会の結果を受けて、大阪代表として3校から6名の2年生を選考して大阪チームとして参加しました。

本校からは、3名が選考され、顧問の堀田がコーチ・メカニックとして引率しました。

8月19日(金) 午前9時スタートから30秒間隔

第1ステージ 個人タイムトライアル HSRサーキット 2.3km×2周=4.6km

田上(清風)が5位入賞、橋本10位、河村(興國)16位となりました。

上位3人のタイム合計がチームタイムとなりますので、18分53秒80で団体総合2位からのスタートとなりました。



集合写真



TT 10位の橋本(茨木工科高)

8月19日(金) 午後3時スタート

第2ステージ クリテリウム HSRサーキット 2.3km×30周=69.0km

午前中の個人TTで総合2位となったので、チームとしてシードされ最前列からのスタートとなる。レースは序盤に九州選抜と北桑田高校の2名の選手が逃げる展開となる。

大会初日ということもあり多くのチームが様子見をしているので、集団のスピードは上がらない。レース中盤に満を持して田上(清風)が3名で集団から抜け出て逃げが完成。このまま逃げが決まれば、大阪チームとしては入賞決定であるので、他の選手はゴールスプリントに備えたが、集団のスピードが上がらないので、橋本(茨木工科)が単独で逃げに出て田上を含む3名を追った。田上が遅れてきたので、橋本が少し引くが先行する2名が集団に追いついたので、橋本は順位を1つでも上げるべく3、4位の選手を追うが、最終順位は5位、田上も粘り7位。

団体総合2位のまま2日目を迎えることになった。



最前列にならぶ大阪選抜チーム



クリテリウム先頭集団

8月20日（土） 午前8時30分スタート （熊本県・南阿蘇村）

第3ステージ ロードレース 南阿蘇アスペクタ周回コース（変則） 80.0km

残念ながら雨天のためスタート前に大周回5周（大周回13.2km）+8.5kmのレースから大周回4周に短縮されてスタートすることになった。

高校生にとっては非常に厳しい登りの続くコース設定で1周目の登りから集団はバラバラになる展開となる。10名通過後5分でラップアウト（失格）となるため、次々とラップアウトとなる。

大周回の2周目に雨がさらに激しくなり、道路上を川のように水が流れ出したので、レースの途中ではあるが、さらに1周回短縮して大周回3週のレースとなった。大阪選手団は5名が最終回に入り、完走26名という大変厳しいレースの中、5名も完走するという素晴らしい結果であった。田上（清風）9位、橋本（茨木工科）12位、塚本（茨木工科）13位、渡辺（茨木工科）20位、河村（興國）24位、団体総合2位キープ



8月21日（日） 午前9時スタート （熊本県・湯前町）

第4ステージ ロードレース 湯前町特設コース 9.8km×8周=78.4km

団体総合2位を守るべく、最初から誰かが逃げにのるよう指示してスタート

1周目から指示通り、渡辺（茨木工科）が4名で集団から逃げている。集団の中では大阪チームは足をためて、チームとして動くことができている。

4周回目に入り個人総合1位の九州選抜の選手が一人で集団からとび出し先行する4名に追いつく。5名となった先頭集団のスピードが上がり渡辺ともう1名が遅れだす。先頭集団の3名と集団のタイム差が1分30秒と開いたので大阪チームは集団ゴールスプリントに備える。渡辺も集団に戻りアシストできるように走っている。

最終ゴールスプリントでは、チームとして上手く固まらなかったが、集団スプリントとなったので、ほぼタイム差なしで、橋本（茨木工科）8位入賞、河村（興國）16位、塚本（茨木工科）23位で、団体総合3位のチームと1分40秒の差を付けて総合2位をキープ。完走者56名



スタート前 国会議員の金子氏が応援スピーチ この後、渡辺が逃げる（手前の選手）

8月21日（日） 午後4時スタート （熊本県・人吉町）

第5ステージ クリテリウム 人吉町特設コース 1.6km×20周=32.0km

チームの作戦として、団体総合2位の確保と田上の個人総合入賞を狙うことを確認する。橋本も個人総合10位にいたので、入賞も狙えるが結果次第ということでスタート。

スタート直後から初日のクリテリウムでも逃げた2人が示し合わせたように逃げだし、他の選手を寄せ付けないスピードで逃げる展開となったので、大阪としては集団を押さえ、まず田上を集団から逃がす作戦へ、他のチームから個人総合に絡まない2名が加わったので田上を含む3名を逃がす。その後、メイン集団が先頭の2名にラップされそうになったので、残り5周回ぐらいからチーム得点を考え大阪チームで集団のスピードアップをはかり、集団がラップされることを防ぐ。残り3周回で個人総合入賞の可能性のある橋本も集団から逃げ出し一人で田上を含む第2集団を追う。残り2周で稲吉もメイン集団から橋本を追走してジョイント。メイン集団は残りの選手がコントロールしている。メイン集団から大阪の選手が3名逃げ出たのでチームとしては団体総合2位は確定させてゴールスプリントへ。

最終結果 田上（清風）5位、稲吉（興國）6位、橋本（茨木工科）7位、塚本（茨木工科）9位、チームとしてベスト10に4名を送り込むという完璧な走りで団体総合2位と田上の個人総合入賞を確定。橋本は惜しくも12秒差で入賞を逃す。 完走者32名



みどりの
シャツが
本校生徒

左から
橋本
塚本
渡辺

おわりに

今大会はインターハイ前に大阪から1チーム参加できるということになり、急遽チームを編成して参加することになった。3名の選手が本校より選出されたので、大阪に残していく他の選手の練習も気になるが、堀田も引率に加わりました。

結果として、個人総合の入賞は逃したが、積極的な走りを見せた橋本の成長。集団内でチームとして不測の事態に備える走りの出来た塚本、第4戦では最初の逃げに乗った渡辺と本校としては大変収穫の多い大会となりました。

3日間で5レースを行うという過酷な日程であったが、常に上位で5戦完走した橋本個人の賞状はないが、常に集団上位でフィニッシュした塚本 第5戦は腹痛のためラップアウトとなったが4戦まで確実に完走した渡辺。 茨木工科高校選手の活躍が大阪チームとして団体総合2位という立派な成績につながったと考えます。

今回は全員2年生での参加でしたので、来年に期待の持てる結果となりました。